

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3年 12月 13日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500406		
法人名	医療法人社団さゆり会		
事業所名	グループホームさゆり		
所在地	広島県呉市音戸町早瀬1丁目36-6 (電話) 0823-56-2360		
自己評価作成日	令和3年11月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490500406-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490500406-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年12月9日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>コロナ禍で、ご家族や近親者との面会が難しい折ではありますが、疎外感や寂しい気持ちにならない様、工夫した面会やドライブ、移動販売での商品購入などを行っています。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>コロナ禍による自粛はあるが、最近の事業所の特徴的な取組みとして第一に「馴染みの人や場との関係継続の支援」に深化がある。即ち、事業所は「気軽に訪問できる事業所作り」を重視するが、現在はコロナ禍による面会制限がある中、遠方家族とのリモート面会・事業所での電話を介した窓越し面会や最近は玄関ホールで感染対策を施した上で触れ合える距離での短時間面会も始まった。又、島内ドライブで生家に立ち寄り「まだ崩れていない」と安心された経緯もある。第二に「事業所と地域とのつきあい」に深化がある。即ち、閉じこもりがちな生活の中、地域のコンビニから来る移動販売が楽しみの1つとなった。当初の週1回が隔週になったり、食事前に弁当や好物を買って後悔したこともあったが、今まで出来ていた買い物の楽しみが再現できるようになっている。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

自己評価	外部評価	項目(グループホームさゆり①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	施設理念を更衣室の目につく場所に貼りだし、記憶できるようにしている。また、職員がケアに迷ったときは、理念に立ち返ることができる。	開設時に策定した基本理念を事業所内に掲示し、実践上の立ち返るべき原点として位置付けている。各職員は理念に沿った具体的な一言で目標設定し、管理者との半期毎の個人面談で達成度を検証している。事業所は次の半期に向けその達成を強化すべく考課査定に反映させたい意向がある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の方と、畑を作業している。寒くなってくると、牡蠣を、近隣の「牡蠣打ち」から購入し、利用者と職員で食べている。	現在はコロナ禍により散歩やドライブ以外は自粛中だが、本来は祭り等、地域行事にも参加していた。近隣から花や野菜の苗の提供を受けたり事業所の祭りに地域住民の参加や各種ボランティアの訪問等、相互交流もあった。地域のコンビニから来る移動販売も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ご家族や利用者からの質問や相談に乗っている。認知症初期の方への接し方や、指導診察を受けられる病院などの紹介もしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	施設の取り組みや、地域の行事、ヒヤリ・事故報告、身体拘束廃止について、虐待防止、今後の運営計画等、多岐にわたり報告相談している。	会議はコロナ禍で直近6回の半分は自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員の参加を得たが他は書面による事前照会を行っている。家族他、参加できない関係者には会議資料を送付している。参加者より資料に利用者の移手段の内訳があれば状態像がわかりやすいという助言があった。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域の介護で困っている方を、地域包括に紹介させていただいたり、空き室情報の交換、事故報告書の提出を行っている。	地域包括支援センターとは運営推進会議や事前照会(配布の会議資料)で運営情報を共有している。会議の開催報告書は市介護保険課に郵送しており、市担当者とは日頃から相談や報告、行政主催の集団指導研修会へのオンライン参加等で協力関係の構築を図っている。	

自己評価	外部評価	項目(グループホームさゆり①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	eラーニングにて、身体拘束について、研修を行っている。 玄関入り口は、施錠はしているが、ナンバーロックを採用しているため、いつでも開閉できる。	研修会等を通して職員は「拘束をしない」必要性を認識し特に新人職員にはその場で指導する等、具体的なケアの中で実践を重ねている。適正化委員会を兼ねた運営推進会議で拘束状況を定期的に検証し拘束例はない旨を公開している。見守り同行以外、玄関はテンキーロック対応である。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	eラーニングにて、研修を行っている。 虐待につながる行動や、声掛けに気づいたときに、職員間で話し合えるような関係性を作れるようにしている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	家庭環境や、経済状況などを把握し、必要な方には、後見人制度を利用している。 職員に対しては、折々、成年後見制度について説明している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に、各種契約事項の説明を丁寧に行い、ご家族様から、疑問や不安等があれば、その都度、ご説明し理解、納得して頂けるように努めている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会やお電話などの時、意見や要望を聞くように心掛け、玄関の方に、意見箱を設け、気軽に意見等をして頂けるように心掛け、意見要望等いただいた際は、職員で話し合い、運営に反映させていただいている。	現在はコロナ禍で面会自粛だが、家族とは電話連絡・介護計画更新時・事業所での窓越し面会・意見箱等で意見・要望を把握し迅速な対応に努めている。冬用ズボンへの衣替えを希望する家族に対し重くて利用者が着替えにくい事を説明し、レッグウォーマーを活用した例もある。	

自己評価	外部評価	項 目( グループホームさゆり① )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議で、意見を聴いたり、個別での要望を聞いたうえで、定例会(4事業所の役職者や代表者参加し会議を行っている。)にて、発表し検討したのち、反映させている。	適宜の職員会議・申し送り・管理者他との2回又は随時の個別面談等で意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案等に対する支援体制を採っている。職員提案により、ゼリー食に至らない利用者に対し、見た目の美味しさを提供するため、配食業者による盛り付けの工夫に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	現場での職員個々の力量や勤務状況を把握し、それに応じた勤務内容や勤務形態にし、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年に数回不定期で、内部研修会を開き、職員の質を向上させている。Eラーニングも行っている。個別の外部研修に参加する職員には、休日の調整や、研修補助金等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人として、資格取得に対する支援を行い、内部研修や外部研修への参加により、職員一人一人の向上を図るよう努めている。同業他社の職員を招いての研修も行っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	見学や面談時にお話を伺ったり、入居されてからも職員からご本人様の様子を伺いながら、本人様の声を大切に受け止め、できることは提供していけるようにし、安心して生活頂けるように努めている。 ご家族の協力もたくさんいただいている。		

自己評価	外部評価	項 目( グループホームさゆり① )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	電話相談、受付、面談など、ご家族の困りごとや、要望について伺い、ケアプランに取り入れている。一日のご様子や細やかな変化をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご見学に来られた際、ご本人やご家族の意見や本人の状況を確認し、必要なケアを話し合い、随時、実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者と、職員で制作を行ったり、職員が解らない言葉や行事、歌を教えていただいたり、家事などを手伝っていただいたりと、共に過ごす一員として、関わっていくよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族に、生活歴や、楽しみだったことなど、聞きながら、ケアなどに取り入れたり、ご家族の面会を支援して、家族とご利用者の距離を離さないように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会や電話などは、基本的に自由に行っている。地域をドライブなどをし、ご利用者の馴染みの場所を通ったり努めている。知人に季節のものを送ったり、手紙を書いたりしている。	遠方家族とのリモート面会・事業所での電話を介した窓越し面会や最近は玄関ホールでの短時間面会も始めている。又、島内ドライブで生家に立ち寄ったり、運営推進会議の参加者が前に通っていた喫茶店主に事業所で再会したり、利用者・家族の気持ちに寄り添った支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目( グループホームさゆり① )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者同士、話が合う方、ご利用者の様子に合わせて、食事席を変えたり、レクリエーションにしても、協力してやれることを提供するように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	移り住む先の関係者に対し、直接、情報を伝えるに行ったり、移り住んだ場所に、訪問したりし、経過を見守っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護計画の更新の際、聞き取りでご希望を聞いたり、生活の際の会話から思いを汲み取っている。困難な場合は、関係者で本人立場に立って検討している。	職員は利用者と一緒に話さず深く関わりを持ち、思いを汲み取って申し送りノートや介護計画に反映する等、思いの共有に努めている。帰宅願望のある時は面会の増回を立案したり、発語なく表出困難な方には家族の同席のもと、職員と共に思いを探り尊厳に向けた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人、ご家族、利用していたサービスそれぞれから情報と、お話を得て、これまでの生活の様子の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日の様子を記録に残し、その日の過ごし方や、心身状態等、全職員が把握できるように努め、日々の少しの変化も記録にのこすよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目( グループホームさゆり① )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当者会議を行い、ご家族、職員、看護師、ケアマネ、管理者、ご本人で集まり、ご本人の状態の確認、ケアの確認を行っている。	介護計画原案を適宜担当者会議で検討し面会時等に家族の同意を得て本案としている。職員が毎日の実施状況を記録し、計画作成担当者が3ヶ月を基本にモニタリング・計画を見直している。コロナ禍でも家庭的な仕事を奪いたくない思いから主体的な役割作りに繋がる立案に努めている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の介護計画に沿ったケアができているかモニタリングし、ケースに記録している。変化などがあれば記録に詳しく記録し、情報を共有し、状況・状態が変わった時は、介護計画の見直しをしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者の状態に合わせて、入浴や食事の時間を変えている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の方が持ってこられた、花や野菜の苗を、水撒き草抜きしてお世話している。		
30	11	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	週2回の内科往診、週1回の歯科往診にて対応している。内科外来受診については、かかりつけ医と情報共有している。	利用前の主治医の受診継続も可能だが、全ての利用者は協力医を主治医としている。協力医から週2回、系列協力歯科医と泌尿器科からそれぞれ週1回の往診もある。専門医の受診は主に管理者により行われ、訪問看護から毎日4回の訪問と共に適切な医療を受けられる体制を構築している。	

自己評価	外部評価	項 目( グループホームさゆり① )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>毎日、訪問看護師と職員で情報を共有し、相談も行っている。緊急時には、電話駆けつけ等の24時間対応出来るようになっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際、日ごろからの状態や状況の経過を含め、情報提供している。入院中は面会で本人のご様子をみたり、電話連絡で、連携室へ経過を確認している。また、事業所の空き情報を日頃から、こまめに連携室に伝えるなど、関係の構築を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居契約時に、書面で重度化についての説明をしている。終末期には、再度意向の確認を行い、本人、家族の要望に沿った対応ができるよう、医療機関と連携している。状況の変化に柔軟かつ迅速に対応するため、こまめに家族との連携を取り、方針を共有して支援している。</p>	<p>要望があれば看取りを行なう方針である。利用契約書の「看取りの指針」にて説明・了解を得ている。重度化した際には家族・医師等で話し合いを行い、指針に基づき適切な支援を行う方針であり、過去に数件の看取りもある。適宜eラーニングによる研修や医師による直接指導も行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>動画学習にて、応急手当や初期対応を学習したり、医師による研修を行い、対応の仕方などを学んでいる。対応手順や、連絡先を目につく場所に貼りだして、落ち着いて対応できるようにしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回、日中と夜間想定の方災避難訓練、土砂災害避難訓練を行い、地域の消防の方にきていただいたとき、研修している。</p>	<p>消防署指導のもと、年2回の避難訓練を夜間想定、利用者も参加して実施している。ハザードマップでは土砂災害警戒区域であり、運営推進会議を通して自治会長他と災害時の協力体制ができています。災害に備え避難場所の確保や利用者・職員3日分の備蓄整備等、減災対策もなされている。</p>	



自己評価	外部評価	項目(グループホームさゆり①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入浴時や排泄時、居室など、プライベート空間に立ち入る際は、声掛けやノックなどお知らせしてから行っている。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制もある。尊厳に配慮してケアに関わり、利用者への言葉かけも不適切な対応には指導や気づきを促すが、職員間で話しやすい雰囲気もある。居室等のプライベートな空間にも配慮しており、脱衣室の扉にカーテンを設置した経緯がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者の希望や思いなどを、ご利用者が決定や意思表示しやすいような言葉かけをするように努めている。意思表示が難しいご利用者は、選択できるような支援を、表情や普段の会話から思いを汲みとるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	決まった日課をこなすために、無理をすることがないようにし、食事のメニューや入浴時間、外出先など、ご利用者の希望によって変えたりもしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出の際は、余所行きの服を着てもらったこともあったり、訪問美容の日は、好きな髪型やヘアカラーを、利用者に決めて頂いている。お化粧品もして頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	行事などの時は、季節の食材を使って提供したり、普段施設で食べる機会が少ない物をお出ししたり、おやつ時は、お菓子作りを職員と一緒にしている。	食事は外部業者から届いたレトルト食材を温め、職員の作るご飯と汁物を添えて提供している。月に一度の特別食では利用者は調理にも携わり役割分担をしている。事業所菜園から採れた野菜が食卓に上がったたり、近隣の台湾料理店からの持ち帰り、団子作り等、楽しみとなる工夫もある。	

自己評価	外部評価	項 目( グループホームさゆり① )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一日の食事摂取量、水分摂取量を個人記録に毎日記録し、かかりつけ医と共有している。栄養が不足しているご利用者には、食事とは別に、栄養飲料ゼリーを摂取して頂いている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>朝食後、夕食後の声掛けを行っている。難しいご利用者には職員が口腔ケアを行っている。口腔ケア時は見守りを行い、磨き直し、義歯の預かり等をしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表を使用し、ご利用者に応じて、声掛け、トイレ誘導を行ったり、出来る限りトイレでの排泄ができるよう努めている。使用するパンツ、パットの種類サイズを検討する機会を、多くしている。新規入居者の排泄パターンを早期に把握するよう心掛けている。</p>	<p>排泄記録表で排泄パターンを把握し、トイレ誘導を基本としている。利用開始時から立ち座り・移動・更衣動作等の生活リハビリや可動式手すりの活用、その方に適したパンツ・パッド導入等、状態像に合わせた排泄の自立支援を行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎朝、乳製品を朝食に付けるようにし、自然排便を心がけている。トイレ時に、お腹をさすっていただいたり、歩くことで排便を促している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>利用者の気持ちや、体調に配慮して、時間の変更や日にちを調整している。入浴が億劫な方は、トイレ後や、お話をしてから、入りたい気分になるよう努めている。洗身洗髪更衣が自身では難しい方の介助をしている。</p>	<p>週3回の午前浴が基本だが、利用者の体調や入浴習慣に合わせて好みの湯温や時間等、柔軟に対応している。ユニットにより介助スペース広めの浴室・浴槽と浴室・浴槽は少し狭いが寝たまま使えるミストシャワー浴の設置等、利用者の体への負担を配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目( グループホームさゆり① )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	眠られる時、起床時は、特に強制せず、ご利用者のペースに合わせて声掛けなどを行っている。日中も、休みたい時に、居室などで休んで頂いている。		
47		○服薬支援  一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬ファイル、おくすり手帳を使っており、いつでも確認できるようにしている。処方変更があった際は、薬剤師や看護師、医師からの通知があり、申し送りノートに記入し、職員が周知する様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	塗りが好きな方、洗濯が好きな方、散歩が好きな方、おしゃべりが好きな方、それぞれ継続して行えるようにしている。 役割に関しても、喜んでいただける利用者をお願いしたり、お飲み物も関係しても、炭酸飲料や昆布茶など、個々でお好きな物を、提供している。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	戸外へ出たい希望があれば、職員付き添いで、散歩や日光浴に出ている。車両でご自宅に戻って、家屋の換気をしてこることもある。	コロナ禍で外出は当面の間自粛をしているが、天候が良ければ敷地内の散歩や季節行事としてツツジ見物や自宅・島内の馴染みの場所へのドライブ等、普段は行けないような場所で「非日常」を楽しんでいる。又、事業所の菜園で野菜・花作りを楽しむ等、外気に触れる支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お財布を持ち、好きな時に自販機で飲料を購入している。 移動販売車が来る日は、好きなものを購入し、召し上がられている。		

自己評価	外部評価	項 目( グループホームさゆり① )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、時間帯などを考慮し、電話やビデオ通話できるようにしている。 手紙は、希望があれば、便箋と封筒を用意している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室内の温度設定に配慮している。 造花を飾ったり、季節に応じた、壁画を毎月、ご利用者と職員と作成したりし、季節感ある空間作りに努めている。	近所から提供された季節の花や野菜の苗を育て生けている。正月等、行事の飾り付けや利用者とする壁掛け作品で季節の移ろいが感じられ、海を臨めるフロアに換気で潮風を入れている。日中は出来るだけカーテンを開けて日々のリズムを整えるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファで、ゆっくりと過ごすことが可能である。うとうとされたり、仲の良い方同士で、おしゃべりしたり、施設内は自由に過ごすことが出来る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用していた馴染のある家具などを使用して頂き、家族との写真や、ご利用者が落ち着ける空間を作っていくよう、利用者の意向に沿った空間作りを心掛けている。	ユニット2の居室にはベッドの他にトイレ・洗面台が備え付けられている。又、テレビ等、使い慣れた物や愛用の枕や外出ドライブで立ち寄った自宅にあった電動ミシン等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。利用者によってはポータブルトイレを設置する時もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの場所がわかるよう、表示をつけた。 時計の位置に配慮し、今が何時かわかるようにした。		

V アウトカム項目(グループホームさゆり①) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(グループホームさゆり②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	基本理念「全ての人の尊厳を大切にします。」「全ての人が両親を入所させたい施設を目指します。」のもと、職員全員が目標を立て、半年に一度振り返りを行い、職員個々の質を上げ、施設としての質が上がるよう、努力しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	初詣などの年中行事や、近隣漁港の祭り、季節の花が咲いたら景勝地に皆さんと参加しています。近隣の店舗から購入した食事を楽しむこともあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議や、地域行事等でお会いした地域の方々から、介護保険の事や認知症の方への対応の仕方などを質問された時は、丁寧に説明しています。また、近隣の方から電話での質問や困りごとに、回答やアドバイスをしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回開催しています。自治会長、民生委員、包括の職員さんにお越しいただき、さゆりの現状と今後の計画を報告しています。ヒヤリハット・事故報告や身体拘束廃止、虐待防止について報告・相談をしています。ご意見、ご助言を頂き、ケアに生かしたり、運営に反映させています。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	呉市担当職員と、書類の提出時や運営上の相談を適宜行っています。地域包括支援センターとも、運営推進会議へ出席いただき各種報告や相談を受けています。また、呉市介護相談員にお越しいただき、相談ご指導を受けています。		

自己評価	外部評価	項 目( グループホームさゆり② )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用契約時に書面によりご説明し、承諾を得て、緊急時にも書面による説明承諾を行っています。 委員会を設置し、施設内研修を定期的に行っています。職員間でも確認しあい、少しでも身体拘束グレーゾーンをなくすよう努めています。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修にて、虐待へつながる兆候や、ケース事例から研鑽しています。運営推進会議や、ご家族の面会等で、外部の方に施設内を見て頂き、職員の対応や言動から気になるところがないか、ご覧いただいています。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設内研修にて研修しています。入居者に、成年後見制度を利用されている方がいらっしゃるのので、実例を使用して、研修できています。また、制度を利用している方におかれましては、呉市社会福祉協議会の権利擁護センター職員と連携を取り、生活上困りごとが無いようにしています。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用契約時に書面にて説明を行い、十分ご理解と納得頂き、署名をいただいています。不明な点は、すぐに回答できるよう準備しています。また、後々、疑問点が生じたご家族様には、その都度、お答えするようにしています。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置しています。窓口担当者を決めて、これまでに数件のご意見を頂いたことがあり、適切に対応しております。ご意見や、対応した内容、結果を運営推進会議でご報告し、助言を頂いています。		



自己評価	外部評価	項目(グループホームさゆり②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	不定期にミーティングを行っています。また、個別での意見や相談も随時受けていますし、経営者や管理者と話し合える場を作っています。経営者と管理者も、定期的な会議の場や、折々の場で、運営について相談できています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の家庭環境や体調面に配慮した勤務を組んだり、生き生きとやりがいを持って働けるように、言葉掛けを行っています。資格取得や、勉強会への参加を促していますが、職員からの提案も受け入れています。職員考査システムを導入予定であり、今以上にやりがいがある職場になると考えています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修会や勉強会、資格講習会などの参加を促しています。費用負担や、参加しやすい勤務を作成しています。研修修了者から、職場内で教え広めていくこともやっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	県や市の研修会に参加しています。オンラインでの研修会では、参加できるものは多く、参加しています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に、本人のご自宅へ訪問し面談させていただいています。本人のお話しや普段の様子から、不安なことや困っていることを把握し、入居後の生活の要望をお聞きし、安心して馴染んでいただけるよう対応しています。その後は、職員や、他の利用者との関係性を良好に築けるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項 目( グループホームさゆり② )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご本人との面談時には、ご家族の同席もお願いしています。ご家族の不安なことや困っていることを把握し、入居後の生活の要望をお聞きし、安心してお任せいただけるよう対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要に応じて、他の制度や他の施設の説明や紹介ができる事、主治医や薬剤師、行政と気軽に相談できること、当施設では看取りまで行っていることを随時お伝えしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	お一人お一人のできること、得意なことを見抜き、テーブル拭きや下膳、畑の水やりなどをお手伝い頂いています。 ご自身の事も、出来る出来ないを見抜き、靴下が自身で履ける人にはご自身で、背中が自身で洗える人はご自身で洗って頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居前面談の時に、「当施設では、職員だけでケアを行っていくのではなく、ご家族と一緒にケアしていくことを目指している」ことをお伝えし、無理のない範囲でのご協力を得ています。 定期的な面会や嗜好品の差し入れなど、ご協力いただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族、ご親戚、お孫さん、お友達、近所の方、多くの方にご面会しています。 通院、法事、墓参り、結婚式、敬老祝賀、外出を支援しています。 LINEやSkypeを使用し、ビデオ通話も行えます。		

自己評価	外部評価	項 目( グループホームさゆり② )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	関係が良好に行くように、食事席の配置や、ドライブのメンバー席順等配慮しています。 行事を通して、関係性を築けるよう配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後に、ご家族が施設を訪れて、生前の事を思い出されながらお話をされていくことがあります。 お元気な方には、終末期のケアについて相談を受けたり、医療についての橋渡しを行っています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	何気ない会話の内容や、個別でゆっくりお話しする中でのお話を、出来るだけ汲みとっている。 ご家族とお話することで、新たな生活歴を知ることができ、日々の生活に取り入れることができています。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面談から生活歴の大まかな聞き取りを行っている。入居後も、本人やご家族から色々な話をして聞き取り、本人の生活歴に肉付けし、より良いケアにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケース記録やバイタルチェック、個々で記録を振り返りながら、職員間、訪問看護、医師などと相談し、お一人お一人のケースや問題点を把握しています。		

自己評価	外部評価	項 目( グループホームさゆり② )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員が普段のかかわりの中で、利用者の思いや願いを聞き取り、医師、看護師の意見も取り入れて、職員間で色々な意見を出し合っています。その人らしく生活できるよう、計画を立て、定期的にモニタリングを行っています。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に、日々の経過記録を残して、職員間で共有しています。また、ケアプランにも生かしています。連絡ノートを活かし、日々の変化に対応したケアが出来るようにしています。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	集団行動を基本とせず、1人1人の希望に添えるよう対応しています。予定通り、時間通りの行動を望まずに、利用者本位のケア、生活リズムを提供しています。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	訪問美容やボランティア団体による慰問、亀山神社への初詣、近隣のお店から食事を取り寄せ食べたり、花の咲く時期には多くの名所を訪れています。地域の方の支援を受けて、園芸も楽しんでいます。		
30	11	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の往診が週に2回あります。訪問歯科も週1回あります。入所前にかかっていた専門医の受診も継続して行っています。		

自己評価	外部評価	項 目( グループホームさゆり② )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>訪問看護師が日に4回来られます。医療処置や相談、リハビリ、健康チェック、かかりつけ医との連携等をしてください。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院先の病院の地域連携室と連携し、介護・看護サマリーのやり取りで情報交換共有しています。また、地域連携室とは退院後の生活に意見を頂いたり、空室・入居希望者情報等の連携を取っています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居契約時に書面でご家族に説明しています。医師から終末期に入ったと知らせがあった場合、本人・家族の意向を充分にくみ取れる場を設けて、看取りも行っています。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>医師や看護師から研修や指導を受けています。緊急時の連絡体制やマニュアルもあり、事故報告やヒヤリハット等、実際のケースを定期的にマニュアルに取り込んでアップデートしています。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防署に協力依頼して、消火・通報・避難誘導訓練を行っています。地域や自治会と連携して、津波や水害、土砂災害時にも対応できるよう避難場所の確保も出来ています。防災グッズの整備や、非常食のストックもしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目(グループホームさゆり②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇や言葉遣い、法令遵守、プライバシー保護の研修を行っています。「親しみを込めた言葉遣い」と「慣れから言葉が雑になる」の違いを継続して指導しています。また、職員間でも気軽に注意しあえる関係を作っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者の意思を引き出すよう言葉がけを工夫しています。難しい様子なら、選択肢を減らしたり、助言したり、選択しやすくしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床臥床時間や食事摂取量、入浴、レクリエーションなど、他者と同じにしなくても結構です。個々の生活スタイルや、食生活がありますので、出来る限りこれまでやって来られたことと同様に過ごして頂けるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2か月に1回、訪問美容に来ていただいています。カット、カラー、パーマ、メイクで楽しんでいただいています。朝の整容、お出かけの整容、季節に合わせた装いをお手伝いしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の嗜好や嚥下機能にあった物を提供しています。旬の野菜や果物を加えて季節感も出しています。月に1度の特別食は日頃と違ったメニューを用意して楽しんでいただいています。また、お好み焼きの日を設けて、利用者職員で作り、楽しんでいきます。		

自己評価	外部評価	項 目( グループホームさゆり② )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	専門業者による献立で，栄養価の管理は出来ています。 食事と水分摂取量を記録して，栄養が摂れているか確認しています。不足がちな方は，栄養ゼリーなどで補食しています。 刻んだり，とろみをつけたりと，食事形態を個々に合わせて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後に口腔ケアを行っています。ご自分では難しい方には，お手伝いさせていただきます。 週に1度，訪問歯科に来ていただき，口腔ケアを行って頂き，清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄の記録を取り，パターンを知る事，サインを見逃さないようにしています。 出来るだけトイレで排泄できるよう，タイミングを外さないように努めています。		
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	薬だけに頼らないよう，朝食で乳製品を摂れるようにしました。腸が活発に動けるよう，水分補給と無理のない運動を取り入れています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。	週に3回の入浴で予定を組んでいます。その日の気分や体調に十分配慮して，順番の変更，調整をしています。		

自己評価	外部評価	項 目( グループホームさゆり② )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	夜間にゆっくりと休めるよう、日 中は活動的に過ごす事をお勧め しています。しかし食後や入浴後、 運動後、年齢や体調、気分等で 少しお休みになりたい方は、夜 間の睡眠に影響がない範囲で、 休まれています。		
47		○服薬支援  一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	かかりつけ医、看護師、薬剤師 と連携し、服薬内容の変化や、 症状の変化を記録し、職員間で 情報共有しています。 ご自身で服薬が難しい方は、 職員が服薬介助、飲み込み確認 をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	自宅近くまでドライブで行くと、 当時の思い出を他者に話してく ださるので、皆さん共感して楽 しんでおられます。トランプや カラオケ、塗り絵などで楽し みます。移動販売が来るのを 楽しみにされ、お好きなものを 購入し、召し上がっています。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出 かけられるように支援してい る。	散歩やひなたぼっこ、洗濯もの 干し、ドライブ、なじみの地域、 地域行事等で外出しています。 ご家族の協力で、法事や結婚 式、買い物や役所などに外出 外泊できるようお手伝いしてい ます。		
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している。	自販機でジュースを買ってお られます。 ドライブの際は、お店でアイス を買ったりしています。 移動販売車が来ると、皆さん で買い物に出かけます。 通院の際も、自身で財布をお 持ちの方は、支払いをされて います。		



自己評価	外部評価	項 目( グループホームさゆり② )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個人で携帯電話をお持ちの方は、いつでも家族知人に連絡を取っておられます。お持ちでない方には、施設の電話で連絡を取られたり、lineやSkypeでビデオ通話されています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用部は、見た目と、香りと、消毒に気を付けています。季節感のある飾りつけで楽しんでいただき、換気で外気を取り入れ潮風を感じることができます。手で触れる場所の定時消毒で感染予防にも努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事席は、入居者間の関係性を感染予防を考慮して配置しています。にぎやかに過ごされたい方はテーブル席で過ごされ、少しゆっくりされたい方は、ソファで過ごされ、うたたねされたりしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	過ごしやすさや、思い出などから、長年ご自宅で使用されていたタンスや椅子、服や鏡、布団や枕を持ってきていただいています。できるだけ使い慣れた物に囲まれて、お部屋に居れば、安心できる環境を整えています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	できる事は、時間がかかっても、自身でやっていただいています。できることを職員が取り上げてしまわないよう、気を付けています。日によって、気分や体調がよくない時は、職員がお手伝いしています。		

V アウトカム項目(グループホームさゆり②) ← 左記( )内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームさゆり

作成日 令和4年1月5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	包括支援センター職員から、地域の方の認知症に対する理解を広めてほしいと依頼があった。	サロンや、カフェに相当する形で、地域の方と直接、お話しできる場を作る。	包括支援センターや、自治会、サロンやカフェを行っている他事業所と連携し、協同して何ができるか検討する会議を持つ。	1年
2	35	非常災害時に必要な物品や設備が、まだまだ不足している。	計画に沿って、必要物品と設備を充実していく。	3日間維持できる食料や水、発電機や蓄電池の設置等を、法人内で検討する。	6か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。